

山の博覧会（SAGA JAM 2028）基本計画書

佐賀県 山博・緑化フェア事務局

2026年10月

1. 開催概要

1. 開催の背景・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
2. 山の博覧会 （SAGA JAM 2028） 開催の経緯・・5
3. 基本概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
4. 活動理念・活動指針等・・・・・・・・・・・・7
5. デザインコンセプト・ロゴマーク・・・・・・・8

2. 事業計画

1. 事業の全体像・・・・・・・・・・・・・・・・・10/11
2. 自発のコンテンツで楽しむ・体験する・・・・・12
3. 普及啓発コンテンツで知る・気づく・・・・・・13/14/15
4. 大規模コンテンツで共感・共有する・・・・・・16
5. 各コンテンツ共通・・・・・・・・・・・・・・17

3. 2028（令和10）年に向けたロードマップ

1. 2026~2027年度の事業内容 ・・・・19

1. 開催概要



山は、暮らしや生業を支えるすべての源

- 佐賀は山と川と海の循環の営みのなかに、暮らしと産業をつくってきた
- その恵みに感謝する人たちによって山は手入れされてきた
- 山を愛でるのは、佐賀の歴史と誇りそのもの
- この循環の恵みに気づき、感謝する視点を、体験を通してひらいていく

山は人の手によって守られていた

薪や炭といったエネルギー源を得るためであったり、または住宅の材料としての木材を得るため、山では多くの人が活躍していたおかげで、山はきちんと手入れされていた。
手入れされている山は、水を蓄えて洪水を緩和する水源涵養の機能や、土砂の流出を防止する県土保全機能などを有し、そこに住む人々だけでなく、沿岸部や平野部を含む全ての人々の暮らしを守っていた。

時代と社会、山の変化

戦後の復興で山の木を使っていたころまでは山には人がいて、山は手入れされていた。その後、エネルギー源が石炭から石油に代わり、特に昭和30年代の後半ぐらいからは、日本の木材ではなく、輸入した木材で家が建てられるようになり、木が売れなくなった。人が山からいなくなり、山の手入れをする人も減っていった。

災害を契機に

平成29年7月北部九州豪雨では、山がその機能を保てず、山から川を通じて流れ出した倒木が有明海を埋め尽くした。その光景を目の当たりにして改めて「山（森）や川や海はつながっている。一体として守らなければいけない」ということに思い当たる。山と川と海を人がつながなければならない。源流は山。山の人だけではなく、森・川・海をみんなでつなぐ。そこが山の博覧会の原点。

山に触れる機会を増やし 山への感謝や畏敬の念を再認識するためにできることは。

これまでのあゆみ

2017年度

「平成29年７月九州北部豪雨」を契機に、山を大切にし、佐賀の豊かな自然を未来につないでいくための施策を始動



山を大切に！強い思い

2017年度～現在

山から受けとる、人がつなぐ 森川海人 MORIKAWAKAITO PROJECT

森・川・海の環境を守り、佐賀の豊かな自然を未来につなぐプロジェクト

2020年度～現在

山の会議（仮）

山に住み続けてきた人、山に興味がある人、山に移住してきた人など多様な人々が集まり、山の未来を語り合い、つながる

▼

佐賀の豊かな自然を大切に想う自発の地域づくりが広がり
「山に触れる機会を増やし 山への感謝や畏敬の念を再認識するため」
のしっかりした土台が広がった


森川海人っ協定


森林保全活動


KAWARUプロジェクト



虹の松原 清掃活動


多良岳登山

○山への感謝や畏敬の念を持ち、山を大切に想う人々がつながることで
山の営みや自発の地域づくりの取り組みを県内外に広げる。
○山の課題や環境問題を再認識し、1人ひとりの意識や行動の変容につなげる。

▼

2024年度

山の博覧会 開催を公表
第44回全国都市緑化フェアfrom SAGA（SAGA GREEN JAM 2028）同時期開催

現在

山の博覧会の愛称「SAGA JAM 2028」に決定
各地域や分野を代表するプレイヤーによる実行委員会を開催

2028年度

山の博覧会（SAGA JAM 2028）を開催

基本概要

正式名称

やま　の　はくらんかい
山の博覧会

ロゴマーク



愛称

さが　じゃむ　にーまるにーはち
SAGA JAM 2028

「JAM」には、「楽しむ、即興する、好きなことをやる、ぎゅっと詰め込む」という意味を込めている

テーマ

みどりとあおのいぶき

会場

県内全域の山、川、まち、海をフィールドにした大小ある様々な取り組みの１つ１つを博覧会のパビリオンと見立てて開催
参加者には、地域に直接足を運んで参加・体験してもらう

※総合案内所やオープニングイベント等の各種会場は別途設定

開催期間

2028（令和10）年3月25日（土）～11月11日（土）

主催

佐賀県

WEBサイト

https://saga-jam.jp/sagajam2028/

（参考）2028年同時開催

正式名称

だいよんじゅうよんかいぜんこくとしりょっかふぇあ　ふろむ　さが
第44回全国都市緑化フェア from SAGA

ロゴマーク



愛称

さが　ぐりーん　じゃむ にーまるにーはち
SAGA GREEN JAM 2028

テーマ

みどりとあおのいぶき

会場

メイン会場　　：吉野ヶ里歴史公園、森林公園、佐賀城公園
パートナー会場：32か所（17市町）（2026年10月末時点）

開催期間

2028（令和10）年3月25日（土）～５月28日（日）

主催

佐賀県、公益財団法人都市緑化機構

下記のとおり、それぞれのパーツは植物や花、幹や茎、大地を表現しています。



活動理念

すべての人々に恩恵をもたらす森・川・海を未来へ
～佐賀の豊かな自然、暮らしを未来へつなぐ～

活動指針

活動指針＝活動理念の実現に向けて大切にする視点（価値観）

源流への感謝

佐賀県の豊かな暮らしの源である山が畏敬の対象であることを再認識し、
森・川・海を大切に想う心を持つこと

自発の地域づくり

地域資源（県内の自然、またはその恩恵を受けた地域ならではの魅力や価値の源となるもの）の
磨き上げ、発信、活用などに、地域住民が誇りや愛着を持ち自発的に取り組むこと

佐賀から世界を変える

１人ひとりの意識や行動の変化の積み重ねが、佐賀の豊かな自然と暮らしを未来へつなぐ力となり、
人から人へ、地域から地域へと広がっていくこと

開催目的

自発の地域づくりを通じて、全ての人々に恩恵をもたらす源流である
山への感謝や畏敬の念を再認識するきっかけをつくること

みすえる未来

短期～中期（-2028）

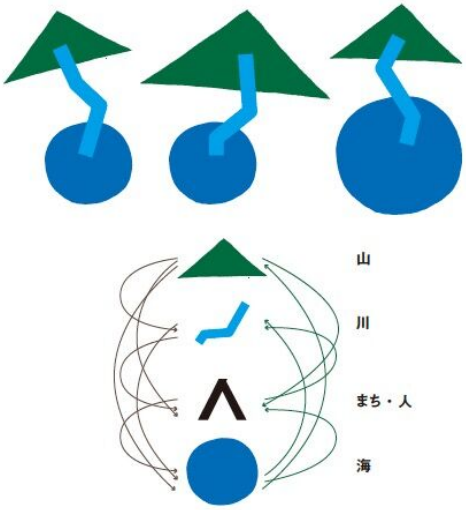
森・川・海の循環の恵みを受けていることに気付き、感謝し、自分なりに意識や行動を変える人が増えている

長期（2028-）

日常の中に、「源流への感謝」と「自発の地域づくり」が価値として根付き、それらが次世代へ受け継がれ「SAGA JAM」として国内外へ広がっている

デザインコンセプト ・ロゴマーク





山を表す（▲）と、川を表す（▌）、海を表す（●）を組み合わせたシンプルなシンボルマークです。シンボルマークに添えるロゴタイプの「A」には、まち・人の意味も込めており、合わさることで、佐賀の風土に息づく、自然と人の関係性や循環を表現しています。

また、「山の博覧会｜SAGA JAM 2028」を通じて、山・川・海をはじめとする佐賀県内各地の活動がつながり、「自発の地域づくり」が持続していくことへの想いも込められています。

メディアに応じて図形の大きさや間隔を柔軟に変えられるため、将来的な事業の発展に合わせて多様な場面で展開しやすいデザインです。同時に、どのように使っても一貫した視覚イメージを保てるように設計しています。

子どもでも思わず描きたくなるような、覚えやすいデザインは、さまざまな人に親しみと愛着を生み出します。

※県民の皆さんに幅広く活用していただけるよう展開しています。

２．事業計画

SAGA JAMの構成

SAGA JAM 2028は、大きく３分類のコンテンツで実施。
それぞれのコンテンツにおける体験等を通じて、次世代を担うこどもたちをはじめ、
１人でも多くの方々と「活動指針」を共有。

自発のコンテンツで楽しむ・体験する

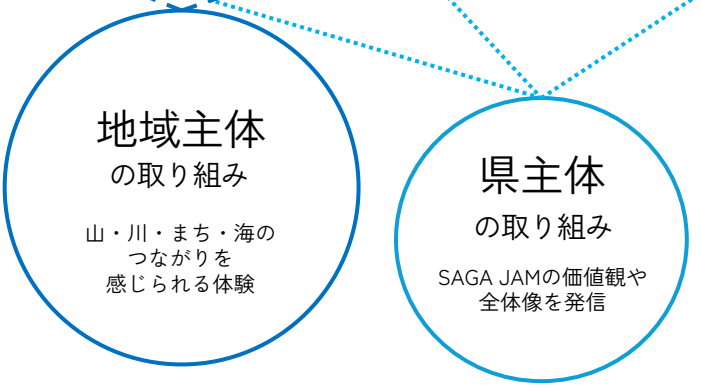
自然豊かな佐賀県全域をフィールドとした地域主体の取り組みを主役にする

普及啓発コンテンツで知る・気づく

自然や地域づくり活動との接点が少ない方にも分かりやすく価値を伝える

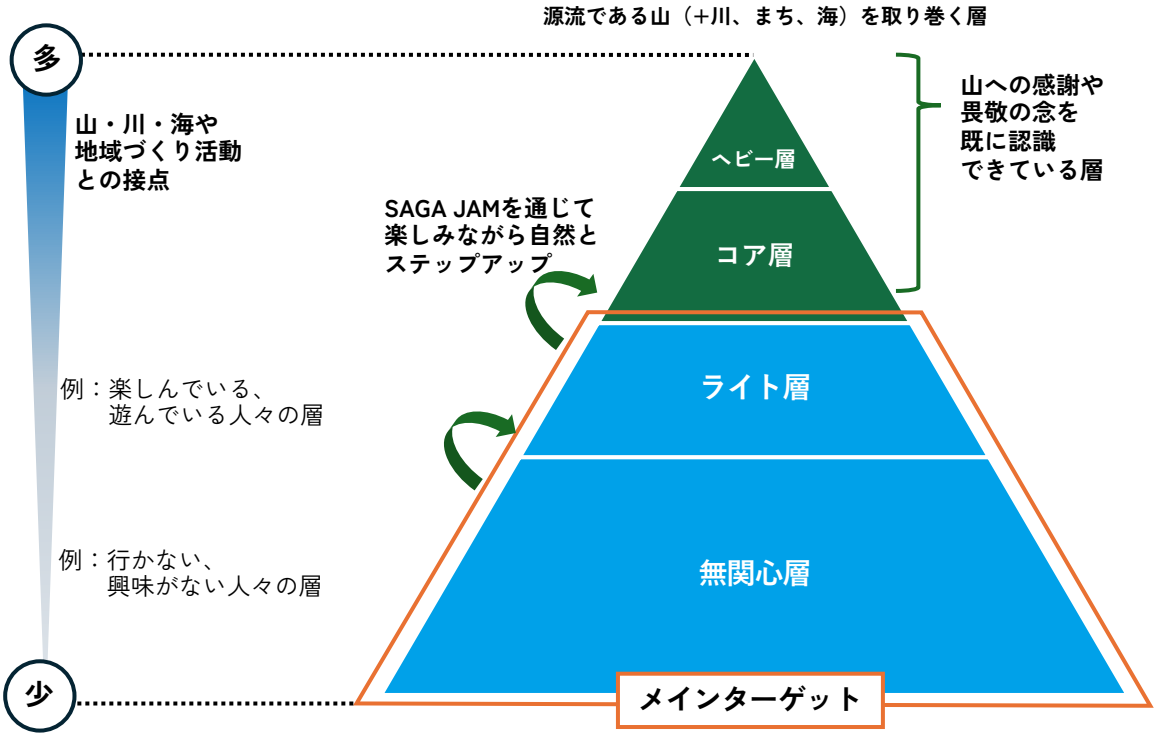
大規模コンテンツで共感・共有する

多様な人々が一堂に会し、佐賀の自然や地域のすばらしさを体感（共感）・共有する



※円の大きさは想定される取組数の違いを表す

ターゲットイメージ



コンテンツの成り立ち

1 自発のコンテンツで楽しむ・体験する

2 普及啓発コンテンツで知る・気づく

3 大規模コンテンツで共感・共有する

山の博覧会（SAGA JAM 2028）の主役

コンテンツを通じて、山への感謝や畏敬の念に気づくとともに、1への参加や後押しにつなげる

自発のコンテンツ

（例）
- 自発の地域づくり
- 参加体験型イベント　など

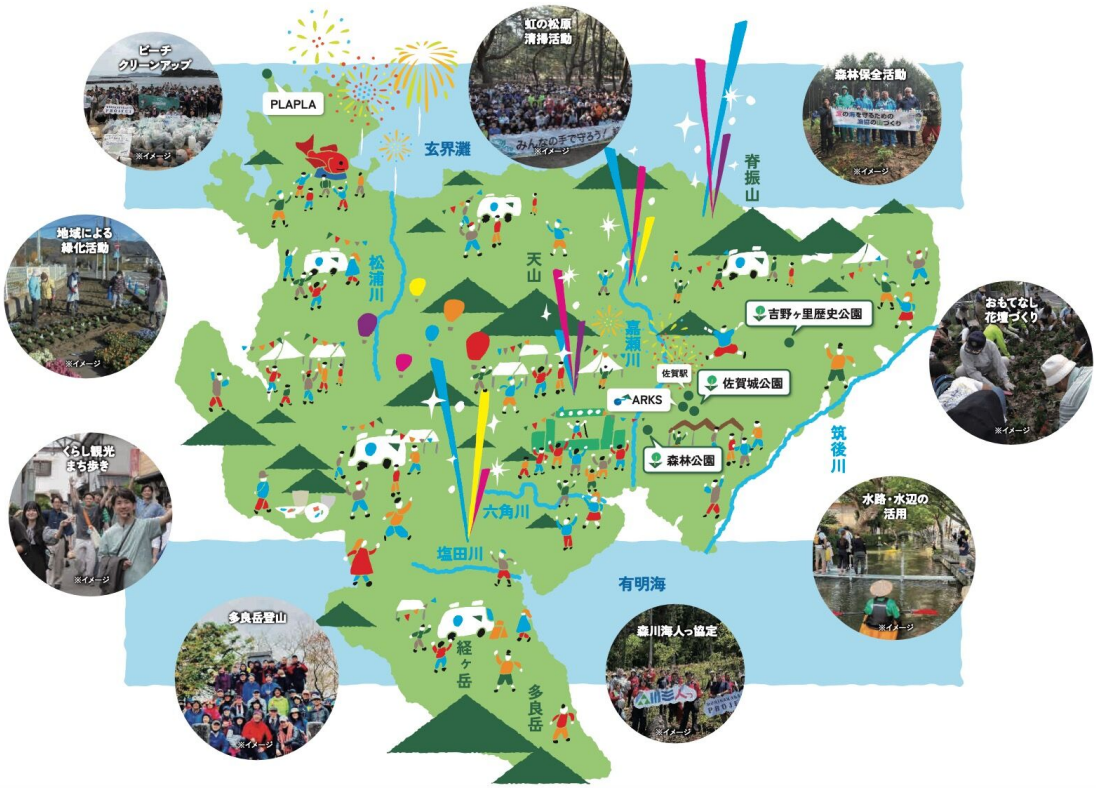
普及啓発コンテンツ

（例）
- 情報発信拠点
- フォーラム　など

大規模コンテンツ

（例）
- オープニングイベント
- クロージングイベント　など

展開イメージ



SAGA JAM 2028の主役

自発のコンテンツ　普及啓発のコンテンツ　大規模コンテンツ

山・川・まち・海をフィールドにした「自発の地域づくり」

SAGA JAM 2028の主役となるコンテンツは、県内全域で取り組まれている「自発の地域づくり」。
体験を通じて、活動する人の想いにも触れ、山への感謝や畏敬の念を再認識することや、
活動する人や地域との新たな出会いを生み出し、参加者自身が地域に関わるきっかけとする。

展開イメージ



▲登山を通じた魅力発信 @太良



▲棚田保全や休耕地活用イベント @みやき



▲中山間地域の景観整備や地域振興 @七山



▲水産資源を生かした漁業体験 @玄海



▲お寺でこども向けのフェス @基山



▲郷土料理を次世代につないでいく料理教室 @有田



▲まちの食材や魅力が集まる地域発のマルシェ @多久



▲地域の自然を活かした新たな観光資源の開発 @大町



▲水辺の生き物観察会@県内各地

県内の自発の地域づくりを集めて発信。
現在、「誰でも参加可能な」コンテンツを募集中。

動く情報発信拠点

自発のコンテンツ　**普及啓発のコンテンツ**　大規模コンテンツ

主にメインターゲット層へSAGA JAM 2028の情報をプッシュ型で届ける

山に触れる機会を増やし、山への感謝や畏敬の念を再認識するために必要な情報発信を行う。
SAGA JAM 2028の主役であり、県内全域で取り組まれている「自発の地域づくり」への参加を後押し。
※メインターゲット層＝ライト層・無関心層

課題 1　「自発の地域づくり」は少人数で運営されていることも多く自然体のままでは「情報発信」が手薄になることもある

課題 2　山・川・海や地域づくり活動と接する時間がそもそも少ない層にどうやって情報を届け、興味を引き付けるか

▼

「情報発信」のサポートが必要
メインターゲット層が多く集まる場で情報を届ける

- 「動く情報発信拠点（VAN）」を導入
- 装飾を含め「移動すること」自体で話題性を作る
- 県内各地の既存イベントや学校へ出向き、主に「ライト層」や「無関心層」を「自発の地域づくり」へ誘う
- 「自発の地域づくり」へ出向き、取り組みや活動する人の想いを取材

展開イメージ



JAM VAN

①つなぐ
集まった情報を渡し、次の活動へ送り出す



VISION VAN

②伝える
活動指針（価値観）を届ける



MEDIA VAN

③集める
各地を取材し記録する



FOODVAN

④感じる
食を通して山・川・海の恵を感じる

※VANの各画像は、生成AIを活用して作成しています

既存のイベントとコラボ

県主催の大型イベントに「動く情報発信拠点」が出向き、来場者へSAGA JAMを発信



佐賀さいこうフェス



TOSU NESTIVAL



グランブルー

総合案内所

自発のコンテンツ　**普及啓発のコンテンツ**　大規模コンテンツ

世代やエリアを超えてあらゆる層へ SAGA JAM 2028を周知

佐賀県で初めて開催するSAGA JAM 2028は、県内外を問わず1人でも多くの方々の認知度を高め続けていく必要があり、「動く情報発信拠点」を補完する「総合案内所」を設置。

「動く情報発信拠点」の特性	「総合案内所」が補完	「総合案内所」の特性
「動く」ゆえに出会えない可能性もある希少性	◀◀◀	**いつでも「そこに行けば出会える」安定性**

（総合案内所に期待される役割）
単なる案内所ではなく、山に触れる機会を増やし、山への感謝や畏敬の念を再認識するために必要な情報発信。
SAGA JAM 2028の主役であり、県内全域で取り組まれている「自発の地域づくり」への参加の後押し。

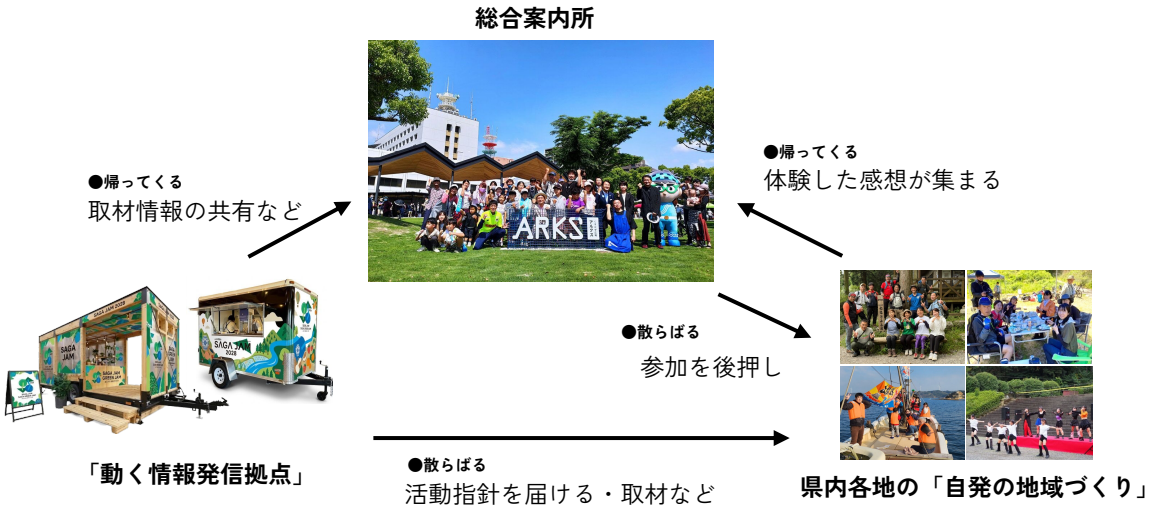
（総合案内所に必要な機能）
・設置場所は、交通量の多い幹線道路沿いで、敷地全体が道路や歩行者空間から見えやすいこと。
　→敷地内で行われている活動の様子が通行する人の目に自然と入り、「何かやっている」と興味を持ち、目的がなくても立ち寄るきっかけを生み出すことができる。
・敷地が高い開放性を備えていること。
　→開かれた立地は、関心のある人だけでなく、これまで接点のなかった人々との新たな出会いを生み出し、参加の輪を広げることができる。
・敷地内にイベントスペースや「動く情報発信拠点」の展示スペースが確保できること。

上記の機能を備えている既存施設（ARKS）を総合案内所の設置場所として想定

展開イメージ

「ここからはじまり、散らばり、帰ってくる。」

ARKSから情報を得て、活動（体験）に参加（散らばり）。そしてその体験を終えるとまた帰ってくる。
そこではそれぞれの体験の共有。仲間との交流。新たな情報の習得と発信。
そして、また体験をしに散らばっていく。そんな情報と人の流れを生み出す総合案内所に。



フォーラム

自発のコンテンツ　普及啓発のコンテンツ　大規模コンテンツ

活動指針の共有を図り「自発の地域づくり」への参加へつなげる

SAGA JAM 2028は、山に触れる機会を増やし、山への感謝や畏敬の念を再認識するため、様々な手段を講じて、県内全域で取り組まれている「自発の地域づくり」への参加を後押し。
山・川・海や地域づくり活動との接点が少ない層が感じやすい心理的・物理的（交通手段など）ハードルを軽減できるよう、県民の関心度や活動段階に応じて対話・交流の場を設ける。

■ 主に無関心層・ライト層向け（コア層以上の参加を否定しない）
→山への感謝や畏敬の念を感じ取れるようなしかけはしつつも、「楽しそう」「面白そう」と感じてもらい、「自発の地域づくり」への参加を後押しすることを重視
（山への感謝や畏敬の念は「自発の地域づくり」に参加することで改めて感じてもらう）

例えば、著名なゲスト等の発信力を活かし、これまで自然や地域活動との接点が少なかった層の参加を促す。親しみやすいトークや企画を通じて、佐賀の自然の豊かさや価値への理解を深めるとともに、SAGA JAMへの関心や参加意欲の向上を図る。

セッション

SAGA JAMを一緒に考える仲間とつながる

どうすれば「山への感謝や畏敬の念を再認識できるのか」様々な規模とカタチで一緒に考える仲間とつながる。
例えば、地域で活動する人々（プレイヤー）が自発的に集まり山の未来を語り合う交流会。
その他、さまざまな分野のゲスト（専門家）が地域で活動する人々（プレイヤー）にエールを送る場や、各地域や分野を代表するプレイヤーによる実行委員会など。
点と点の活動をつなぎ、面として広げるネットワークをつくる。



オープニングイベント

自発のコンテンツ　普及啓発のコンテンツ　**大規模コンテンツ**

世代やエリアを超えてあらゆる層へ SAGA JAM 2028の開幕を周知

SAGA JAM 2028は、山に触れる機会を増やし、山への感謝や畏敬の念を再認識するため、様々な手段を講じて、県内全域で取り組まれている「自発の地域づくり」への参加を後押し。このため、佐賀県で初めて開催するSAGA JAM 2028は、県内外を問わず1人でも多くの方々の認知度を高め続けていく必要があり、オープニングイベントの開催によってメディアへの露出度を高める。

「自発の地域づくり」の特性
- **体験を通じて山への感謝や畏敬の念を再認識できる**
- **「参加者数」という観点では限定的な場合もある**

◀

「オープニングイベント」等が補完
- **ワークショップ等で小規模な体験**
- **音や映像等の演出で山への感謝や畏敬の念を感じるしかけ**
- **「次は本場の自発の地域づくりへ参加したい」と思う動機付け**

展開イメージ

・イベントの参加者（無関心層やライト層）が、後日「自発の地域づくり」へ参加（出発）する
・「動く情報発信拠点」が出発する
・オープニングセレモニーは2028年３月25日（土）開催
メディアへの露出を高め、県民への周知を図る観点から、セレモニー後１か月程度の間にもイベントの開催を検討



※上記画像は、生成AIを活用して作成しています



クロージングイベント

山に触れる機会が増え 山への感謝や畏敬の念をあたりまえに感じる未来への跳躍点

SAGA JAM 2028の終了を告げるいわゆる閉会式ではなく、SAGA JAM 2028の活動を振り返るとともに、コンテンツとして「自発の地域づくり」を提供していただいた方々はもちろん、コンテンツに参加した県民が未来へのメッセージを発信し、新たな「出発点」とする。

展開イメージ

- 源流への感謝につながる会場を舞台に、これまでの活動を通じて出会った人や地域、文化、アイデアが再び結集
- 2028年 11月11日（土）開催


※上記画像は、生成AIを活用して作成しています

名称・表記の統一

自発のコンテンツ　普及啓発のコンテンツ　大規模コンテンツ

「これはSAGA JAMに関連した取り組みだ」と感じてもらえるよう名称・表記の統一を進める。

（例）

- **交流会、実行委員会** → **SAGA JAM SESSION**
- **動く情報発信拠点** → **SAGA JAM CARAVAN**
- **総合案内所** → **SAGA JAM BASE**
- **フォーラム** → **SAGA JAM FORUM**
- **オープニングイベント** → **OPENING**
- **クロージングイベント** → **FINALE**　など

その他SAGA JAM 2028へ向けた取り組み

開催前から取り組みを開始し、長期的に開催することで、機運醸成と参加の定着につなげる。

次世代を担うこどもたちへ浸透する取り組み

探究学習等において、生徒が源流への感謝を学ぶ機会を創出。学校や生徒が探究学習等のテーマとして選択しやすい環境をつくり、活動理念の普及・浸透を図る。



全ての県民が参加できる取り組み

居住地や年齢、身体的条件等にかかわらず参加できる仕組みを展開。

県内を周遊する取り組み

コンテンツに参加するとスタンプがもらえるスタンプラリーを開催。



※上記画像は、生成AIを活用して作成しています

３．2028（令和10）年に向けた
ロードマップ

2026年度

創生期

活動を創る/やるよ、を広める

●基本計画策定
●「SAGA JAM」認知の獲得
　・メディア広報
●団体及びコンテンツ募集開始
●実行委員会設立
●１年前プレイベント

2027年度

助走期

テストをする/わくわく、を高める

●運営計画策定
●「SAGA JAM」周知
　・メディア広報
●機運醸成イベント
●自発の地域づくり活動の
　磨き上げ
●SAGA GREEN JAM 2028
　連携の具体化

2028年度

本番期

知ってもらう/楽しい、を広める

●「SAGA JAM」開催（春～秋）

